

せいらんそう

社会福祉法人
芳香会 誌号
第 2 5 号
2014年4月発行



青嵐荘特別養護老人ホーム創立40周年記念講演会
理事長、各施設・事業所長、講演会担当職員にて記念撮影

もくじ CONTENTS

平成26年度の事業展開・・・2
社会福祉法人芳香会事業活動計画

あたらしい仲間・・・3
～こんにちは パロちゃん♪～

委員会トピックス・・・3
東日本大震災支援対策本部トピックス

高齢者施設トピックス
・・・・・・4
青嵐荘養護老人ホーム
青嵐荘特別養護老人ホーム
青嵐荘ケア・アシスタンス



司法福祉講演会&EPA
・・・・・・5

更生保護に関する研修会の開催
EPA 迎えた国家試験本番

芳香会活動報告・・・・・・6
芳香会スケジュール・・・・・・6
編集後記・・・・・・6

2011年3月11日に発生した東日本大震災において被災された皆様に、改めて心よりお見舞い申し上げますとともに、当法人も引き続き復興に向けた支援活動に取り組んでまいります。

平成二十六年 社会福祉法人 芳香会 事業活動計画

社会福祉法人 芳香会

理事長 宇留野 光子



芳香会では、次の五つの視点を常に持ち、事業の展開に努めます。

- ① 真に必要な福祉事業所としての存在となるよう常に意識し、業務を遂行する
- ② これからの社会に必要な地域の力を住民のみなさんと考え作り上げる活動を行う
- ③ 幅広い年齢（年代）七十代からなる職員の長所を生かすことを工夫する
- ④ 障害者雇用充実と働く仲間の視点を持つ
- ⑤ EPA介護福祉士候補生のみではなく、在日外国人雇用を積極的に行う

一. 法人本部体制十年目を迎え、その運営について

法人本部の役割と体制づくりに、多くの時間を有し、調整を図ってきた。また施設環境の整備計画にも多くの時間を費やしてきた。

個々の担当内容や法人本部の機能を再度見直し、改善に努める。
なお、今後は当法人の社会的役割と使命に基づく事業の在り方をきちんと見据え、その方向性を定めなければならない。
混沌とした社会背景の中で、より良い社会福祉法人の運営内容となるよう実践して行くことを目標とする。

二. 本部直轄事業内容の充実に努める

- ① 地域生活定着促進事業
平成二十二年十一月 開設
・ツグミ 結城市七五三場
 - ② 事業所内保育施設ひばり 古河市大野
 - ③ 社会福祉研究所 平成二十三年四月 開設
・ツグミ 結城市七五三場
- 三つの異なる事業を運営し、年数の経過と共に個々の事業の課題が生じている。
平成二十六年度においては、運営方法の見直しを行い、事業の充実に努める。

三. 会計の在り方を再検討し、改善する

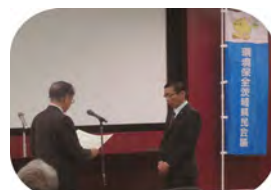
平成二十七年度は、法人設立四十五周年を迎える。
法人全体の運営についての構想を明確にし、これからの事業内容により合致した会計処理が可能となるよう【経営改善委員会】を中心として、取り組んで行く。

社会福祉法人 芳香会 二十五年度五大トピックス

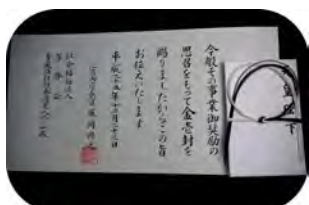
○雇用障害者優良事業所表彰受賞
多数の障害者雇用を行っている事業所として、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構より「努力賞」を頂きました。

○クリーニング作戦活動二団体からの拝受
結城地区で行っているクリーニンググリーン作戦（地域清掃活動）が「環境保全茨城県民会議」及び「茨城県の環境パートナー部門」より表彰を頂きました。

○四名の施設長の社会福祉事業功労者表彰拝受
長年勤務頂いた施設長四名に「全国社会福祉協議会会長」、「茨城県知事」、「茨城県社会福祉協議会会長」より表彰を頂きました。



○天皇陛下からの御下賜金拝受
特別養護老人ホームが全国の優良民間社会福祉事業施設の一つに選ばれ、宮内庁長官の伝達書・金一封を拝受しました。



○特別養護老人ホーム
四十周年記念講演

厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室室長の熊木正人様にご講演を賜りました。一法人の講演会にこのような方からお話を頂けることを有り難く思いながら聴講させて頂きました。詳細は「高齢者施設トピックス」を御参照下さい。

あたらしい仲間 こんにちは パロちゃん

“パロ”とは、ギネスブック（二〇〇二年）に

も認定されている「世界で最もセラピー効果があるロボット」です。姿はタテゴトアザラシの赤ちゃんで、多数のセンサーや人工知能の働きによって、人間の呼びかけに反応し、抱きかかえると喜んでくれるほか、人間の五感を刺激する豊かな感情表現や動物らしい行動をし、人を和ませ、心を癒します。芳香会では今年度より、認知症対応型共同生活介護「グループホーム穂の香」にて導入を行いました。

アザラシ型ロボット“パロ”が新しい仲間となり約半年が経過しました。入居者様もパロへの愛着が湧いてきおり、パロを見ると「あら、また来たのか？」「かわいいな」と日に日に存在感を増しています。

その中で的一幕ですが、ある時にパロと触れ合っていた後に、充電器に接続しようとしたが、なかなか接続出来ませんでした。そこでパロの口を確認すると、なんと、飴玉が入っていました。これは、入居者様が「お腹が減っているのではないか？」などと考え、愛着を持って接している行動の証ではないかと感じました。（ちなみにグループホーム穂の香では、タロウちゃんと名付けられています。）



導入前は、スタッフ間でも「ロボットなんか・・・」という意見が実際に上がっていました。入居者様の笑顔や、面会に来られた御家族様等の笑顔を目の当たりにし、本当に新しい仲間となり良かったと感じています。

また、平成二十五年十二月二十六日（木）に開催された「第十回 実務研究発表」では、パロ導入の研究発表を行い、最優秀賞を受賞させて頂きました。導入間もない事もあり、本当の「研究」まで到達出来ていなかったと思います。今後は、様々な研究課題が発見出来ると思いますので、今回の最優秀賞に恥じない更なる研究と、入居者様の充実した日常生活へ繋げられる様にスタッフ、パロが一丸となり様々な活動へ取り組んで行きたいと思っています。



グループホーム穂の香 管理者 西村 尚哉

東日本大震災支援対策本部トピックス

芳香会では、平成二十三年三月十一日（金）の東日本大震災発生後、「東日本大震災支援対策本部」を設置し、発災直後から平成二十六年三月の三カ年を第一期とし、支援活動を行ってまいりました。この三年間、被災された方の住まいは避難所から仮設住宅、そして復興住宅へと変わってきています。また、町の様子も瓦礫撤去から更地、そして新しい街づくりへと向かい始めています。そのような流れの中で、当法人では、平成二十六年四月から平成二十九年三

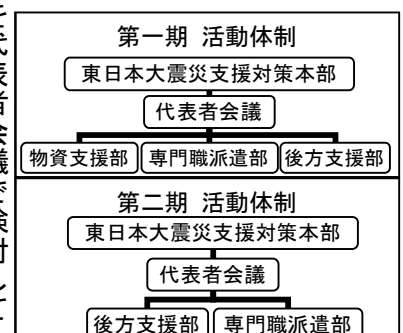
月までを、支援活動の二期として位置づけ、支援活動を継続していく予定です。活動内容としては、後方支援部は被災地支援奨学金等の継続、専門職派遣部では四月上旬頃までに現地を訪問しニーズを把握し、そのニーズを代表者会議で検討していく予定です。

また、平成二十六年二月二十日（木）には「第一期 被災地支援活動報告会」を約七十名の職員が参加し、実施しました。平成二十三年度から二十五年までの三年間、芳香会として様々な被災地支援活動を実践してきました。物的支援から人的派遣までの活動をコンパクトにまとめ、各支援部の報告から「つながり∞ふくしま」活動報告と約一時間の発表があり、参加者は聞き入りました。報告を聞いて、懐かしくも感じ、また、昨日のことのようにも感じ、震災の大きさを改めて感じた次第です。そして、この活動に地域を含め多くの人たちと繋がりが輪ができました。「誰もが支援をした」、その第一歩のきっかけになったのではないのでしょうか。復興の日が一日でも早く訪れることを心から願っております。



第一期活動お疲れ様でした

乾杯！！



東日本大震災支援対策本部
代表者会議委員長 小倉 喜市

高齢者施設トピックス

暖かい“力”をお借りして

青嵐荘養護老人ホーム



青嵐荘養護老人ホームにおける利用者の余暇活動支援に欠かせないのが、結城市内のボランティア団体「ふたば会」の皆様の“力”です。毎月開催している「書道教室」「舞踊教室」へ講師を派遣していただくだけでなく、施設行事の際に利用者の誘導や見守り、行事準備などの協力をしていただいております。書道教室や舞踊教室など、ふたば会の皆様との交流は利用者の方々も毎回楽しみにされており、活動中は笑顔が絶えません。

そこで書道や舞踊以外にも新たに交流する機会を設けられないかと考え、二十五年度後半からふたば会の皆さんにも意見をいただきながら活動内容を試行して参りました。試行を通して利用者の方から「話すことが楽しみ」との意見が多く聞かれたので、二十六年度からは書道教室などとは別に「交流会」として毎月来荘していただき、折り紙などをしてしながら利用者の話し相手として協力をしていただくこととなりました。職員もふたば会の皆様から学ばせていただくとともに“力”をお借りしながら活動内容を充実させ、利用者の方々が楽しく過ごせる時間を提供して参りたいと思います。



創立四十周年 感謝の気持ちを込めて

青嵐荘特別養護老人ホーム

青嵐荘特別養護老人ホームは平成二十五年六月一日をもちまして、創立四十周年を迎えることができました。この節目の年を記念して、①ご利用者と地域の方を対象としたコンサート、②マスコットキャラクターの作成、③社会福祉専門職を対象とした講演会、という三つの事業を実施致しました。

第三弾である講演会は、昨年十二月十四日 火に開催し、厚生労働省生活困窮者自立支援室長の熊木正人様にご講演をいただきました。当日は県内の生活困窮者の担当者や福祉専門職等およそ一〇〇名の方々にご参加いただき、現代の日本における貧困問題や、昨年十二月に成立した「生活困窮者自立支援法」の具体的な内容について理解と学びを深めました。

私たちは、変化する社会の中でも変わらない福祉理念をもち、「生き難さ」を抱えている人々が地域の中でその人らしく暮らすことができるよう、社会福祉法人の使命を全うすべく今後も精進してまいります。皆様のご支援に感謝申し上げますとともに、今後ともご指導の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



交流会で繋がる地域の笑顔

青嵐荘ケアアシスタンス

介護老人保健施設「青嵐荘ケア・アシスタンス」では、定期的に地域のみなさまとの交流会を実施しております。

去る平成二十五年十二月二十二日(日)には障害児者総合支援センター青嵐荘(旧赤羽医院)におきまして、映画鑑賞会を開催しました。

当日は寒空のなか、地元老人クラブのみなさま十五名にご来場いただき、施設ご利用者数名と一緒に昭和三十年代の昔懐かしい映画を観賞するという和やかなひと時を過ごすことができました。ご来場いただいた方より「普段あまり顔を合わすことが少ない地元の方と交流する良い機会」というご意見や次回観賞したい内容のリクエストなどをいただきました。また、障害児者総合支援センター青嵐荘の無料開放について「集会の際にお借りしたいと考えています」とのご意見もあり、地域の活用スペースとしてのご理解を得る良い機会にもなりました。

芳香会の所有スペースを介して地域のみなさまに少しでも貢献ができるということを実感することができました。今後、交流会の内容をより気軽に楽しむことができるように努力して参りますので、地域のみなさまのご参加を心よりお待ちしております。



更生保護に関する 研修会の開催

当法人では、平成二十三年四月に「芳香会社会福祉研究所」を発足しました。研究所設置後、様々な研究活動や学会発表を行い、また研修会を開催させていただいております。

今回は研究所主催で開催した研修の報告をさせていただきます。

芳香会社会福祉研究所では、現在「三井住友信託銀行社会福祉事業開発基金」から助成金をいただき、刑務所や少年院などの矯正施設から出てこられた方への地域生活支援のあり方に関する研究事業を行っております。

そして、その研究事業の一環として、平成二十六年二月十九日（水）に茨城県地域生活定着支援センターとの共催にて研修を開催いたしました。研修テーマを「更生保護の福祉的展開」とし、県内の社会福祉事業所、更生保護関係団体等を対象に開催させていただきました。また「社会福祉法人 茨城県社会福祉事業団 茨城県立あすなろの郷」（水戸市）を会場としてお借りいたしました。

当日は、外部から二十三団体、三十七名の方にご参加いただきました。講師には東京保護観察所を皮切りに更生保護官署に四十年ご勤務され、その後日本社会事業大学客員教授を経て、現在山梨県立大学で教鞭を執られている「御厨勝則先生」をお招きし、社会福祉の視点で更生保護の基礎について、わかりやすく講義をしていただきました。



厳罰化の流れの中で、社会から隔離された期間が長ければ長いほど、社会生活へ適応することが困難になるとされています。「全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」というソーシャルインクルージョンの理念を掲げる社会福祉の分野において、罪を犯し生きにくさを抱える方々を地域社会の中で包摂するための輪を広げられるよう、これからこのような研修会を開催していきたいと思っています。

芳香会社会福祉研究所 研究主幹 酒寄 学



芳香会では平成二十二年に二名のEPA（経済連携協定）介護福祉士候補生を受入れましたが、その候補生も今年ついに介護福祉士国家試験を受験しました。思い返せば沢山の苦労の中で、候補生は必死に日本の生活に慣れながら、仕事と勉強を両立させてきました。同時に私達も沢山の勉強をさせて頂きました。



国家試験を目前に控えた平成二十六年一月



十八日（土）に、つくば市において茨城県EPA介護福祉士候補生受入れ施設連絡協議会の勉強会を二十三名の参加者を迎え開催しました。勉強会では受入れ担当者や候補生で部屋を分け、意見交換を行いました。新しく日本に来たEPA介護福祉士候補生や、試験を控えている人、合格した人の今後の目標等、候補生はもちろん受入担当者にとっても良い刺激になったと思います。

また、一月二十日（月）には介護福祉士国家試験を受験予定の地元の高校生と候補生、芳香会に就職した卒業生を加えた四十人程で合同授業を行いました。高校生にとっては先輩からのアドバイスや、候補生の体験談を聞くことで、受験に向けてのモチベーションがアップし、候補生にとっても共に受験する仲間と交流することで大いに励みになったことでしょう。これからの介護を担う若者とEPA候補生が互いに刺激し合うことで、将来の福祉業界が更に発展していくことを願うばかりです。

「社会福祉法人の方向性」や「存在意義」を問われる時代、私達は未来への可能性に積極的にチャレンジをしていきます。



青嵐荘療護園

施設長 落合 幹彦
青嵐荘特別養護老人ホーム
庶務係長 富張 浩俊

芳香会活動報告

法人奨学生卒業報告

当法人では平成九年度より、独自の奨学金制度を設け医療職等の育成をおこなってまいりました。それに引き続き介護福祉士の資格取得者へ枠を広げ、奨学金制度を実施しています。今回、この制度を利用して、卒業をする看護学生のお二人と作業療法学生の方に、次の項目についてインタビューさせて頂きました。

①卒業報告 ②後輩奨学生への一言



★青嵐荘療育園 柿沼 美江 取得資格 看護師

①無事に学校を卒業する事が出来ました。学校と仕事の両立は大変でしたが、周囲の支えと経済的な支えとして奨学金制度があったお陰です。②最後まで夢に向かって頑張ってください。応援しています。



★青嵐荘ケア・アシスタンス 関 和宏 取得資格 准看護師

①周囲の支えがあり、無事に学校を卒業出来ました。家庭を持つ私が資格取得に挑戦する事が出来たのは奨学金制度を利用させて頂いたお陰です。②辛い時もありますが、自分の成長も実感できると思います。頑張ってください。



★青嵐荘つくし園 櫻井 保明 取得資格 作業療法士

①病院での実習や国家試験の勉強など、忙しい三年間でしたが、卒業を迎える事が出来ました。②奨学金制度を利用して頂き、安心して学業に励む事が出来ました。私は三十代で学生になりましたが、学びに年齢は関係ないと感じました。初心を忘れずに、頑張ってください。



芳香会奨学金利用者

	看護師	准看護師	作業療法士	合計
H21	3人	10人	—	13人
H22	3人	8人	—	11人
H23	3人	7人	1人	11人
H24	4人	4人	1人	9人
H25	7人	3人	1人	11人
合計	20人	32人	3人	39人

芳香会スケジュール

四月 七日迄 高校生インターンシップ
五月 十二日 法人内ヒアリング
五月 十七日 監事ヒアリング
五月 中旬 芳香会献血事業
五月 中旬 上大野地区植栽活動
五月 二十四日 理事・評議員会
五月 下旬 本採用辞令交付式

編集後記

年々、各自自治体のマラソン大会は盛況になっていくようです。晴天の三月当市主催のマラソン大会のボランティアを体験しました。一万人以上のエントリー者のスタートは圧巻で、また、主催の方々の苦勞を垣間見ることができた一日でした。(光)

東日本大震災から三年。被災地のニュースを目にすることも少なくなってきました。ある番組では毎週欠かさずエンディングで義援金の告知をしています。被災地に思いを馳せるこの時間を大切にするために出来ることを続けます。(加)

入職して数カ月、色々な方々のご助力を頂いている事に日々感謝しています。少しでも先輩方に追い付けるよう日々精進したいと思います。(織)



社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL 0280-97-1027(代) FAX 0280-97-1112

ホームページ <http://www.houkoukai.or.jp> メールアドレス honbu@houkoukai.or.jp

※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。